



ピースクラフト通信 No. 9

発行 社会福祉法人・ピースクラブ
住所 〒596 0014 大阪市浪速区大國一丁目11-1
連絡先 Tel & FAX 06-6647-2077
Eメール peaceclub@st.dion.ne.jp

ゆうぎのベトナム旅行記

先月、私たちが参加してきたベトナムでの障害者国際大会の報告です。大会の内容はしっかりとしたプログラム(冊子)があるのでその報告は省かせてもらいます。

▽エピソードその1△

ハノイの大聖堂に行くためにタクシーをひろって、先に春さん、晋作さん組が出発。その次にゆうぎ、のぶくん、佐伯さん組、最後にかじさんら残りのメンバーが出発する予定だったが、ゆうぎが車椅子の積み込みを手伝っている間に、のぶくん、佐伯さんが乗ったタクシーが出発してしまっただけ、追跡！

前でのぶくん、佐伯さんを乗せたタクシーが止まっているのを発見、私たちも大きな声を出してそこでストップしてもらった。私たちが「よかったよかった、彼らと会えて」とほっとした。彼らはお金を持っていないので私たちが立て替えて払ったが、これまたわけのわからない交渉時とは倍の値段をドライバーはふっかけてきた、が、まあ、無事に会えたので良いかと思っただけ。

しかし近くを見渡しても大聖堂はない、春さんたちもいない、どういうことだろう？近くに守衛さんがいたので聞くと、ここはなんと、目的地である大聖堂ではなかった。頭が？のまま彼らに会えたことだけでもよかったよかった。

▽エピソードその2△

え？これが豪華客船？期待を持って望んだハロン湾クルーズ。でも道中からして不安なことは多々あったが、やつとのこと船まで到着。船には車椅子約20台クルージング開始。船にはドリンクもない。途中、船

先月後半から今月初めにかけて宮古の朝子さんのところで吉郎と一緒に寝泊りしました▼ある日、朝子さんが用事で朝から吉郎と留守番。事前に自分が宮古にいる時に予定を組むというので、吉郎が1人出かけて何かあったらどうしようと、内心ちよつと心配でした▼けれど、不安なのは吉郎も同じだったらしく、頼りない晋作をおいてはおちおち出かけられないと、いつもの昼の散歩も早々に帰ってきて、お茶と言ってコップを差し出せば、ポットの麦茶を注いでくれました▼そして用事を終えた朝子さんの車が家の前に止まると、ほんとにほっとしたような顔で「朝子さん、お帰りなさい」と言いました。(普)

で子どもが売りに来たココナッツ（ドリンク）を買おうとするが、すぐ売り切れて1つしか買うことができなかつた。買ったものの、ぬるくて飲めたもんじやない。

それはさておき鍾乳洞の入り口に到着。最初、鍾乳洞へは車椅子は行かないとのことだったが、現地の学生のボランティアさんたちが「僕たちが担いでがんばるので、行ってみましょう！」と言ってくれて

いるので、私たちも「それでは」と期待が胸に浮かぶ。鍾乳洞のある島に上陸するときは、そこでも急な階段が3段、4段あり、それでも「苦労。ボランティアさんと私たちがなんとか20台の車椅子を下ろし、いざ、鍾乳洞へ！みんな、鍾乳洞への階段を見てびっくり！

階段は100段！そして鍾乳洞のなかもまたまた階段！そして鍾乳洞から降りること、またまた階段！誰がどうがんばっても、車椅子1台だつて行くことは難しい。そこでただただ記念撮影。そしてまた乗船。それに大幅な時間を使ったので、世界遺産のハロン湾を望むことなく速くに眺めて帰っていった。

「あゝつかれた疲れた。疲れたクルージング」。



その時、のぶくんだけ一

人で違う船に挑戦。羽目をはずして楽しいんでたようす。

▽エピソードその3△



やっちゃん、かわいいアオサイをビビときて即買った！

トイレ休憩の超短時間にほかの誰もがトイレとお茶を飲むだけで精一杯だったはずだが、そんな中でやっちゃん、沢山のアオサイの中からとっておきの一着に出会い、お買い上げ!!

出遇ってしまったその一着は、やっばりすご〜く似合っていた。

▽エピソードその4△

のぶくんの親善大使！ダウン症は国境を越えた！市場でも、会場でも、友好の村でも、握手に抱擁と本当に自然体での親睦。のぶくん、君は言葉の壁なんてないのだ!!

▽エピソード・・・

まあ、少しはまじめな話もしなければいけない・・・ベトナムの現地の障害者に会う機会ほとんどなかった。大会を除いて。大会で会った障害者はお金持ちの障害者ばかりだった。それにベトナムでは車椅子用のトイレも全く無かった。私たちが泊まっていた

5つ星ホテルでさえ車椅子用のトイレは無かった。車椅子を街中で見かけることは皆無であった。町に出ると本当に貧富の差を感じる。車は高級車が結構多く、庶民階級では手に入らないものだろう。

ホーチミン市の人口800万人、バイクの利用者は300万人。バイク社会！空気が排気で臭苦しい。みんなカラフルなマスクをしている。

私たちが思ったこと・・・ボランティア学生たちの勉強熱心さには驚いた。日本語をべらべらとしゃべるものすごく流暢に。2年ほど学校で日本語を勉強しただけでこんなに話せるものなのか？みんな、ものすごく積極的に日本語で話しかけてくる。目をきらきらと



えりか&ゆうきペアがぬけて新体制
左から北岡頼子さん、森本さゆりさん、藤岡等さん
うしろが下垣成一さん(あとは臨時ピースからサポート)

ピースなお仕事訪問

輝かせて、生懸命な姿。将来の夢を語ってくれる。夢と希望にあふれ、それに向かって今を精一杯がんばっている。なんか圧倒された。
いい意味、悪い意味で、「人間臭さ」があった。
(報告・やぎゆうき)



東住吉区南田辺の早川福祉会館に喫茶「にゆううえいぶ」があります。14年前、この会館が建て替えられたとき、市との交渉を重ねて営業にこぎつけたものです。

ピースの理事長のさゆりさんがオーナー、スタッフはピースから出向の形です。閑静な環境で、会館のなかにはいろいろな障害者団体や関係者が集うので、よい交わりや発信の場になるように思います。

そのほか、ピースの仕事はいろいろありますが、今回はパンの出張販売を紹介

三線センセイのキューバ滞在記

キューバに着いて早くも2ヶ月近くが経ちました。キューバに来た目的は、有機農業が国家的なプロジェ

クトとして押し進められていると聞き、その状況を知るためということでしたが、まあそれは仕事を休む許可

を得るための名目というところで、実際はスペイン語を理解することに必死で、とてもそこまでは手がまわりそうにありません。ニホンの生活に疲れた自分にご褒美と考え、ピースクラブの三線教室の皆さんにも一年間の不在を快く許してもらい、後任のセンセイを務めてくれる中間さんも



浪速区役所のロビーで
左から小西瞳さん、佐伯利也さん、上原毅さん
ほかに愛染橋とかでもやっています

頑張ってくれていることと
思うのですが・・・。

肝心の私のキューバ生活は、ニホンから運んだ重量オーバーギリギリのスーツケースがロストバグゲージにあうというあまりにも悲惨なスタートを切ったのでした。スーツケースの中には一年分の日用品・衣類・薬品（社会主義国キューバでは手に入らないだろうものを厳選して）に加え、なんと三線も入っていたのでした。キューバに発つ前、三線のヘビ皮がワシントン条約にひっかかってキューバにまで持ち込めないのではないかと心配で、郁ちゃんの合皮の三線と替えてもらおうと苦心したのだけども（郁ちゃんは嫌がったので結局できなかった）、今となっては本当に替えてもら

わなくてよかったと思う。

荷物（三線）がないままのキューバ生活は本当に苦しかった。物にあふれた国で生活することに慣れきっていたので、例えば3枚のパンツだけで生活すること、手に入ったものはダンボール紙やチラシのウラまでいづか必ず何かに使えろと捨てずにキープし、ほとんど何も売ってない商店で使えるものはないかとシヨウウインドウを吟味する毎日が続くですっかり価値観が変わられた。

ら日系で沖繩にルーツを持つ人がなんと三線を2本持っているのだから一つ貸してもいいと言ってくれていると聞いた。少しずつ色々な日用品を手に入れてきたけど、まさか三線が三キューバで手にすることができるとは!!

と、喜んでいると、さらに朗報が入り、私の荷物がなんと2ヶ月ぶりに見つかり手元に返ってきたのだ！荷物がなかった間の生活も（今考えれば）楽しかった。物を持たずに生活するといふ貴重な体験ができたし、根性もついた。だけど、自分の三線が戻ってきたのはとっても嬉しい！これでニホンに帰ってからもなんとか三線教室のセンセイに戻れそうです。

（酒井さとえ）

【これからのスケジュール】

- 7月31日（火）生野区民センター 8月9日（木）北加賀屋外イベントセンター大阪
韓国・光州マダン劇団 シンミョン来日大阪公演
「立ち上がる人々」
- 8月13日（月）～15日（水）ピースクラブ夏休み
- 9月15日（土）～ NPO共同連全国大会in静岡大会
- 9月16日（日）エイサー祭り（大正区・千島公園） 今年も出店あり!

《報告》これまで通信の編集は中村晋作1人で勝手気ままにやってきましたが、次回9月から韓鍾裕さん、佐伯利也君とが加わり、編集委員会を作り、サポートしてくれることになりました。どうぞご期待ください。

（編集担当、中村晋作）